

令和6年6月 第23回入善町議会定例会

代表・一般質問要旨（発言順）

令和6年6月5日（水）議運決定

〔質問日 6月12日（水）〕

■代表質問

発言順	質問議員 (会派名)	質問事項	答弁者
1	元島 正隆 (アクト)	（1）旧庁舎の歴史に幕を下ろした感想は ① 先月の5月24日に旧庁舎が53年の歴史に幕を下ろした。笹島町長は昭和46年5月4日に新制入善町のシンボルとして旧庁舎が建設された年に入善町役場に奉職し、定年退職後に町議会議員となり、現在は町長として閉庁式を迎えられた。閉庁式の挨拶で、入庁してから今日までの思い出を、胸を熱くして語られたが、今一度、旧庁舎への思いを述べて下さい。 ② 旧庁舎の歴史の中で、今日までの町づくりに汗を流され、入善町の土台を築き上げてこられた歴代の町長（柚木栄吉氏～米澤政明氏）に対する笹島町長の想いと、一人一人をどう評価・分析し、どう町政に生かしてこられたのか、お答え下さい。	①②町長
		（2）新庁舎に込める町政の理念は ① 入善町の新たなシンボルとなる新庁舎の完成は、それを待ちに待っていた全町民の喜びである。町政の基幹施設となる新庁舎の周辺には、中央公園や総合体育館、子供たちの声が響きあうわくわくドーム、散策できる水の小径、町民の健康拠点施設サンウエルや特養施設おあしす新川など、多くの公共施設が立ち並んでいるが、その中心となる新庁舎が果たすべき役割には大きなものがある。今後、より多くの町民に活用してもらうための更なる周辺環境整備を含めて、将来展望に立った町政理念を問う。	①町長
		（3）人口減少問題に対する斬新で力強い覚悟は ① 昭和28年10月1日の新制入善町誕生から70年が経過した。令和6年の新庁舎の再整備までを顧みて、笹島町政は入善町の輝かしい未来に向けて、改めて、斬新な町づくりの構想を示せるのか。	①～④町長

発言順	質問議員 (会派名)	質問事項	答弁者
		<p>② 人口減少は全国的な問題である。先の人口戦略会議が発表した消滅可能性自治体の報道に対して、町長は「悔しい」とのコメントを出されたが、「悔しい」の一言から一歩踏み出すための新たな一手とは何か。大胆な発想の考えはあるのか。</p> <p>③ 町はこれまでも人口減少問題を真剣に捉え、県下に先駆けて3つの柱を掲げて、対策に果敢にチャレンジしてきたことは高く評価するものの、消滅の可能性のある町と見なされた段階で対策の見直しと新たな取り組みに着手すべきと考えるが、どうか。</p> <p>④ 人口減少により、高齢者が生産年齢人口を上回る時代を迎え、納税義務者数の減少による税収減や地方交付税の減少が懸念されるが、同時に、地方債の返済が重荷になる危機的な状況に直面することも危惧されるが、町の将来像をどう描こうとしているのか。</p> <p>⑤ 人口減少問題に視点を置き、各種団体で構成する町の総合戦略検証委員会が毎年開催されているが、もっと大胆な発想を出せるように、次のような総合戦略の見直しをする考えはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う若者を中心とした総合戦略会議の創設。 ・子供の数が急速に減少する現状での小・中学校の統合などの検証。 ・高齢化が進む中で、地域の一体感が薄れていく現況をどう把握しているのか。その改善策はあるのか。 	<p>⑤うち総合戦略会議／町長</p> <p>⑤うち小・中学校の統合／教育長</p> <p>⑤うち地域の一体感／総務課長</p>
2	佐藤 一仁 (自民清流会)	<p>(1) 第7次入善町総合計画について</p> <p>① 令和8年度からの後期計画策定に向けてどのように進めていくのか。</p> <p>② 策定委員の選出方法はどのように考えているか。若者世代からの公募をしてはどうか。</p> <p>③ 第7次総合計画では人口減少と少子高齢化、高齢者の割合、世帯状況などに関して厳しい見方がなされている。若者の9割に結婚願望があり、7割以上が2人以上の子供を持ちたいとある一方、交通・買い物が不便、働く場所の選択が少ない、娯楽が少なく退屈などとの声が紹介されている。このような課題への取組みはどのように思い描いているのか。</p>	①～③町長

発言順	質問議員 (会派名)	質問事項	答弁者
		④ 少子化の中、子供たちの教育環境整備への取組みはどのように考えているか。特に、小中学校の統廃合についてどのように盛り込んでいくのか。	④教育長
		<p>(2) 国民健康保険加入者世帯の健康管理について</p> <p>① 国保世帯への町のがん検診事業は割安で利用しやすい事業だと感じるが、受診実績はどの程度か。</p> <p>② がん検診の多くが、受診対象年齢 40 歳以上となっているが、20 歳もしくは 30 歳以上にはならないか。</p> <p>③ 人間ドック利用者の負担が高額だ。一万円程度になるように増額助成できないか。</p>	①～③元気わくわく健康課長
3	井田 義孝 (日本共産党)	<p>(1) 町の公共交通について</p> <p>高齢化が進む中で、町の公共交通の改善が求められている。</p> <p>① 運転免許返納者への公共交通利用券の運用を、家族利用やセニアカー購入にも使えるよう見直すべきではないか。町には寝たきりの人を移送する介護タクシーの業者はない。町外の業者でも利用券が使えるよう改善すべきだ。</p> <p>実際の利用の現状を鑑み、町の公共交通体系を「商工観光」から「町民福祉」へと切り替えるべきだ。</p> <p>② この公共交通利用券とは別に、無期限に無料で使えるシルバーパスを発行すべきだ。</p> <p>③ ウチマエくんの利用時間を午後 7 時まで延長すべきではないか。</p> <p>④ 丸川病院とショッピングセンターを巡回するバスを走らせるべきだ。</p> <p>⑤ 他市町村への公共交通の乗り入れと入善駅へのエレベーター設置を検討、実施されたい。</p>	①～⑤キラキラ商工観光課長
		<p>(2) 物価高騰対策について</p> <p>諸物価高騰の中で、6月から政府の電気、ガスへの補助が終了し、電気代が大幅に値上げされている。</p> <p>① 高齢者やひとり親家庭、生活に困窮する方がエアコンなどを制限しなくて済むよう、商品券以外の支援を検討すべきだ。</p>	①町長

■ 一般質問

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
(欠席)	<p>中瀬 淳哉 (一括方式)</p> <p>※欠席のため、 一般質問は 行いません。</p>	<p>(1) 消滅可能性自治体からの脱却</p> <p>① 当町はこれまで様々なストップ人口減少の施策を行ってきたが、もっと大胆に若年女性に特化した施策を行ってもよいのではないかと考えるがどうか</p> <p>② 当町にとってなくてはならない入善高校の存続について、現状はどうか。</p> <p>③ 入善高校とさらに連携をしていくべきだ。特に観光ビジネスコースと町や商工会が授業の一環として積極的に関わることにより、将来的に当町で起業することを目指してもらうような取組みができるのではないかと考えるが、どうか。</p> <p>④ インキュベーション施設を整備すべきだと考えるがどうか。</p> <p>⑤ あわの産婦人科医院とさらなる連携を図ると同時に、支援を拡充すべきだ。</p> <p>(2) 役場の職場環境と人材について</p> <p>① 今の職員定数が現状の仕事量にあっているのか、それだけ多様化した仕事に対応できる定数になっているのか。</p> <p>② ハラスメント対策はどうしているのか。</p> <p>③ 技術職について、今後の人口減少による労働力不足を考えると、初級から採用してもよいのではないかと考えるがどうか。</p> <p>④ 建築技術職については喫緊の課題であり、大学や専門学校等にも職員採用の呼びかけをしているのか。また、今まで建築技術職がしていた仕事については今後どのように対応していくのか。</p> <p>⑤ 技術職としてつける役職が少ないと思うが、給与や手当等で何とか対応できないものなのか。</p>	

〔質問日 6月13日（木）〕

■一般質問

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
4	野島 浩 (一括方式)	<p>(1) 町が目指すデジタル社会、理想とするデジタルコミュニティについて</p> <p>新庁舎での業務がスタートした。町が理想とするデジタル社会における姿について伺う。</p> <p>① 町は今まで「スマホ教室」や「電子回覧板」など、デジタルコミュニティの構築に取り組んできたが、その現状と成果、また、デジタル化に対する町民意識の変化などをどのように捉えているのかを伺う。</p> <p>② デジタル化に欠かせないのがマイナンバーカードと言える。新庁舎での業務に合わせて各種申請書記入サポートシステムを導入した。この「書かない窓口」システムは町民の利便性向上を考えた場合、肌感覚でデジタルを享受できるシステムと言えよう。いかにして広く周知、普及に努めるのか。</p> <p>③ マイナンバーカードの保険証化の期日も迫っている。町民からの問い合わせを受ける機会も多くなった。まだ、利用率は低いとの事であるが、本町での利用の現状は。また、利用を促すだけでなく、利用に対するメリットも含め、丁寧な説明を早急にすべきではないか、見解を伺う。</p> <p>④ デジタル化は、町当局の片側一方通行では成り立たない。町民との意識共有があってこそ成り立つ。その意味からして、昨年10月にスタートした町LINE公式アカウントは町民と直接キャッチボールできる有効な手段であると思う。しかし、登録者においては、まだまだ十分とは言えない。特に、災害情報などを考慮すれば現状の2～3倍の登録があっても良いのではないか。いかに周知し、増やしていくのか見解を伺う。</p> <p>⑤ デジタル化は、日々の暮らしの中の諸事や子育て、教育、文化、観光、人と人との交流、災害などのあらゆる面で欠かせない手段となっている。入善町は先人から代々引き継いだ芸術と文化の町としての一面もあり、また、自負もある。特に、専門家から高く価値評価を受けている前田常作氏の作品をはじめ、所蔵されている美術品500点以上とも聞かすが、デジタル化し、常時見ることができるとネットギャラリーならぬデジタルミュージアムとして公開してはどうか。交流人口ならぬ全国的な関係人口の拡大への一助となるのではないか。時間も予算も要するが検討さ</p>	①～⑥財政課長

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		<p>りたい。</p> <p>⑥ デジタル技術の進展は著しく早い。これまでの当局の施策、対応を評価しつつも、町が理想とする地域社会におけるデジタルコミュニティ像について、今現在、何合目あたりに位置していると思うか、見解を伺う。</p> <p>(2) 舟見城址館周辺の整備について</p> <p>① 今年も 4 月・5 月と水田に水が張られる時期に夕暮れ時の景観を楽しみに町内外から城址館、山の本陣合わせて 1,000 人以上の人々が訪れ、賑わった。将来的には大型バスが往来できるよう「山のみち」整備事業に合わせて、林道中野線の拡幅工事も行われている。ただ、近い将来、大型バスの往来が予想される中、大型バスを駐車できるスペースがないのが現状である。今後、南側の舟見山自然公園を利用して、大型専用の駐車場を確保してはどうか、検討を願いたい。</p> <p>② 城周辺の杉や雑木が成長し、城そのものの景観を損なっているとの声が地元のみならず、来場者からも多く寄せられている。特に、自然公園にある展望台の前の杉が大きく成長し、前方に見えるべき扇状地の景観を完全に遮っており、展望台としての役割を果たしていない現状にある。樹木の伐採について、検討いただきたい。</p>	
(欠席)	<p>鍵田 昭 (一括方式)</p> <p>※欠席のため、 一般質問は 行いません。</p>	<p>(1) 海洋深層水施設と、園家山キャンプ場の整備計画について</p> <p>① 町では、海洋深層水の復旧作業は順調に進んでいるか。</p> <p>② アトランドの搬入・搬出経路はウーケの搬入・搬出経路と並行しているが、交通に影響しないのか。</p> <p>③ 海洋深層水施設と、園家山キャンプ場の整備計画はどのように考えているか。</p> <p>④ アトランド完成後も町道報徳園家線の維持管理は町が行うのか。</p> <p>(2) 人口減少対策について</p> <p>① 大型ショッピングセンター誘致は出来ないものか。</p> <p>② 移住・定住促進事業の補助要件の見直しを考えてみてはいかがか。</p> <p>③ 婚活事業の対象者を富山県全域で考えてはどうか。</p>	<p>①②キラキラ 商工観光課 長</p>

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		<p>(3) 黒部川の防災対策について</p> <p>① 黒部川の川底を低くする防災対策を早急 に実施できないものか。</p> <p>② 雑木の伐採で、増水対策とクマ出没対策 を。</p>	
(欠席)	<p>松田 俊弘 (一括方式)</p> <p>※欠席のため、 一般質問は 行いません。</p>	<p>(1) 介護保険料について</p> <p>① 新川地域介護保険組合は、今年度から 65 歳 以上の介護保険料算定の所得区分を 2 段階 増やし 13 段階にしたが、その狙いは何か。</p> <p>② これまで最も高かった介護保険料は年間 12 万 4800 円だった。改訂保険料では、第 10 段階から第 13 段階で、2400 円から 3 万 6000 円増えている。これは、実質の保険料 の負担増であると考えが当局の認識はど うか。</p> <p>③ 負担増となる第 10 段階から第 13 段階ま でに該当する人はそれぞれ何人か。また、そ のことでどれだけの保険料の増収となるの か。</p>	
		<p>(2) 訪問介護について</p> <p>① 厚生労働省は、訪問介護の「身体介護」や「家 事援助」の報酬単価を 2～3%引き下げた。 小規模な事業者はこれでは「やっていけな い」と悲鳴を上げている。地域を 1 軒ずつ回 る事業所とサービス付き高齢者住宅などに 併設されている事業所とは収支に大きな開 きがある。町は実態に即した報酬単価を国に 求めるべきだ。</p> <p>② 町内を車で訪問している事業者に対し、高止 まりしているガソリン代に補助して経営を 支えるべきだ。</p>	
		<p>(3) 災害対策について</p> <p>① 町が備える避難所の段ボールパーテーショ ンは組立に時間がかかり壊れやすい。瞬時に 設置できるテントに切り替えるべきだ。</p> <p>② 町は緊急物資の備蓄倉庫の必要性を認めた が、設置目標とスケジュールを示せ。</p> <p>③ 緊急物資や災害資機材の充実を図るために、 災害対策基金の創設を検討してはどうか。</p>	
		<p>(4) 会計年度任用職員の処遇改善について</p> <p>① 会計年度任用職員に対する「期末手当」と「勤 勉手当」の支給要件を、週の就業時間 30 時 間以上としているのは県内で入善町のみで ある。直ちに国の基準である 15.5 時間以上 に改めるべきだ。</p>	

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
5	田中 伸一 (一括方式)	<p>(1) 人口減少社会について</p> <p>① 民間組織「人口戦略会議」が4月24日に「将来的に消滅可能性がある」と公表した県内の2市3町の自治体に、入善町が該当した。報告書では「自然減対策が必要、社会減対策が極めて必要」とされていたが、町の所感を問う。</p> <p>② 本町における平成25年度から10年間の人口推移、出生数、死亡者数、人口の社会増減、生産年齢人口、20歳～39歳の女性人口、合計特殊出生率などの人口動態に見られる人口減少の要因について、現在、町はどのように分析し、どのように捉えているのか。</p> <p>③ 「ストップ！人口減少」を実現するためには、少子化対策の推進は最重要課題であり、これまで町は子育て支援の強化など、様々な対策に取り組んできた。今後は、特に合計特殊出生率や出生数の向上を目標にした、町独自の大胆で斬新な発想が必要になって来るものと考え。町は少子化に歯止めをかけるために、今後、どのような施策を展開して行くのが有効だと考えているのか。</p> <p>④ 健康寿命の延伸は、人口の自然減の抑制策として極めて重要な政策課題だと考えており、町民が健康であり続けるためには、町民一人ひとりが生活習慣病や寝たきりを予防することが大切である。歩くことは誰もが容易に実践できる健康寿命の延伸策であると知られているが、本町でも、科学的根拠に基づいた、誰もが容易に実践できる健康づくりの推進が必要ではないか。</p> <p>⑤ 人口の社会増の推進策として、現在実施している空き家バンク、移住・定住促進事業などの施策について、費用対効果も含めて、町はどのように検証し、今後、どのように具体策を講じていく考えであるか。</p> <p>⑥ 町は昭和40年代後半に、本町で新たに住居を構え、永住される方のために宅地分譲事業を実施してきたが、今後、人口減少対策として、新たに宅地分譲事業に取り組む考えはないか。</p>	<p>①町長</p> <p>②住民環境課長</p> <p>③結婚・子育て応援課長</p> <p>④元気わくわく健康課長</p> <p>⑤⑥住まい・まちづくり課長</p>
		<p>(2) 県立高校の次期再編について</p> <p>① 高校の廃止は地域活性力の減退につながると考えるが、県立高校の再編に対する町の対応状況と今後の見解を問う。</p>	<p>①②教育長</p>

発言順	質問議員 (質問方式)	質問事項	答弁者
		② 県立高校再編には、地域検討会や住民説明会など、丁寧な説明と地域住民の合意形成が重要であり、十分な説明や合意もないまま高校を統廃合する計画はあってはならない。入善高校の存続のために町は今後どのように町民と連携を図っていくのか。	